

平成 26 年度日本 ICID 協会講演会の開催

灌漑システムの水利組合の成否の要因～フィリピン ボホール州の灌漑システムの事例から～
亜細亜大学 角田宇子教授

日本 ICID 協会は、平成 26 年 6 月 10 日（月）、TKP 虎ノ門会議室にて、亜細亜大学国際関係学部で開発人類学を専門とされる角田宇子教授を講師にお迎えし、「灌漑システムの水利組合の成否の要因～フィリピン ボホール州の灌漑システムの事例から～」をテーマに講演会を開催しました。

講演会の概要は以下の通りです。

PIM を共有資源管理の理論を用いて考察すると、その成否の検証が明確となるので、以下の 2 つの理論を適用して研究を進めている。

(1) Ostrom の理論 (1990) : 永続的な共有資源管理組織

8 つの設計原理（組織の明確な範囲、便益と負担の連動、運営規則修正への参加、監視、段階的な制裁、紛争解決能力、組織化の権利の保証、多層化組織体制）の全てを備えていなければ、共有資源管理組織は、不当に資源を獲得する（フリーライダー）を排除することができず、組織の衰退、機能停止を招く。

(2) Freeman の理論 (1989, 1992) : 灌漑用水割当て制度

WUA の持つべき 6 つの条件として（リーダーの属性、リーダーと職員の責任、水配分と負担の相関＝割当て制度、上流下流の格差是正＝割当て制度、水資源管理の能力、メンバーの組織の支持の度合い）がある。また、WUA 成功の中核としての割当て制度は、1) WUA メンバーが正当にアクセスできる用水の割当て、2) 灌漑システムを運営する負担の割当て、3) 各メンバーの負担の割当てに応じた発言権の割当ての 3 つがある。また、成功する WUA の共通の特徴として、1) 灌漑受益者が圃場で受け取る用水量は、受益者が支払う灌漑システム運営のコストの負担に応じて決められ、2) 割当て制度によって上流と下流で受け取る用水量が異なるという格差が是正されている。3) WUA 内部の紛争が割当て制度によって解決される、が挙げられる。

事例紹介

(1) 不成功事例

1993 年から灌漑を始めたが、水管理が不公平で、下流の水不足、盗水、水争いなどで、機能不全に陥っていた。1999 年～2003 年にかけて、財務記録の整備等運営の透明性を一部高め、水利費不払い者や不正を働く者を特定した。しかし、不適切な水配分や縁故による役職の選任などから組合資金の不正使用、フリーライダーの問題等が放置された結果、受益者の組織率、水利費徴収率などの課題が解決されず、組織状況評価は低い。

(2) 成功事例

1984 年水利組合設立、水利費の徴収 100% を達成し、2003 年には地域の「最優秀水利組合」として表彰を受けた。

成功要因としては有能なリーダー、公平な発言権・負担・水配分の割当て、高い水資源管理能力を持ち、監視、制裁が適切に行われ問題を内部で解決する能力を有しており、メンバーの負担と用水量が連動した公平な水配分を実現している。

講演には多くの会員が参加し、参加型水管理への関心の高さを伺わせ、講演後の質疑も活発に行われました。

(お知らせ)

本講演会のテキスト等の配布をご希望の会員は事務局までご連絡ください。

また、参加型灌漑管理 (PIM) の成果報告書は、以下の URL からダウンロードできます。

<http://v2.asia-u.ac.jp/kokusai/Kiyou.files/pdf.files/20-12/20-12-kakuta.pdf>

(日本 ICID 協会事務局)



角田宇子教授の講演



講演会の様子